

住民調査でわかった断層の活動と 志賀原発廃炉への道すじ



新潟大学名誉教授

立石雅昭さんがお話しします

原発センター記念のつどい 結成30周年記念のつどい

11月25日(日) 2~4時

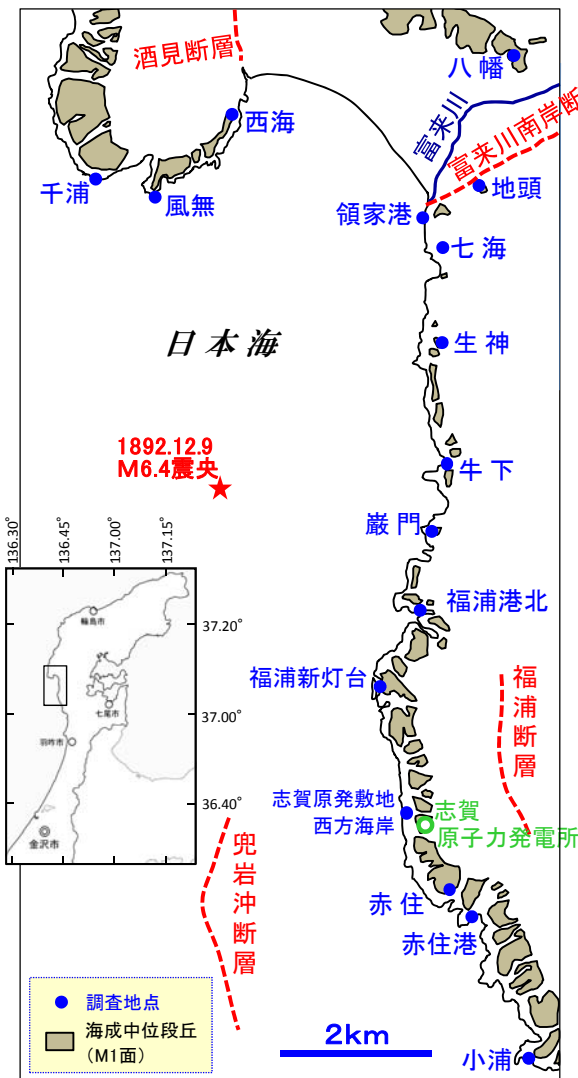
近江町交流プラザ4階集会室

(金沢市青草町88番地、「武蔵が辻」バス停から徒歩2分)

近江町交流プラザ案内図



志賀原発周辺で地殻変動が続いていることが
2012年から続けてきた地質調査で明らかになりました



富来川南岸断層は「活断層」

能登半島に分布する海成中位段丘の高度分布を調べたところ、富来川に向かって南から北に高くなり、富来川の北岸では一転して低くなっていました。これは、富来川南岸断層が活断層であり、12~13万年前から活動している証拠です。

6千年前以降も地震性隆起が継続

志賀原発周辺の海岸で、海食ノッチ（波などでできる崖の窪み）の高度分布を調べました。富来川南岸断層が約6千年前（縄文海進期）以降も活動を続けていて、地震性隆起が継続しておこなっていることを示唆する結果が得られました。

2千年前以降、少なくとも4回の地震

ヤッコカンザシ（ゴカイの仲間）の棲家の化石の海面からの高さ、それができた年代を放射性炭素法で調べたところ、約2千年前以降に能登半島地震クラスの地震が少なくとも4回起きていることがわかりました。

どなたでもご参加できます
ぜひお聞きください

原発問題住民運動石川県連絡センター

石川県金沢市京町24-14-4F 石川民医連気付
電話 076-253-1458 FAX 076-253-1459